

東アジア地域経済研究

担当者 金 早雪

開講時期 前期 単 位 2

●講義の概要

1960年代以降、韓国・台湾のほか中国などが高度経済成長を遂げている。日本以外の東アジア諸国の工業化はなぜ戦後、1960-70年代だったのか、明治・日本から約100年もの時間差が出たのはなぜか、こうした時間差は後発工業モデルにどのような相違をもたらしたのか、21世紀の東アジア諸国経済の現状を確認しつつ日本との連携のあり方を考えたい。

●講義の到達目標

東アジア諸国の経済について、①発展プロセスを歴史的かつ政治経済学的に理解すること、②現状と課題を理解すること、③相互協力の現状と課題を理解すること。以上3点を目標とする。

●講義計画

- 第1回：経済発展をめぐる視角：単線VS従属
- 第2回：東アジアの「近代化」「産業化」
- 第3回：明治日本の後発工業化モデル（雁行形態論）
- 第4回：朝鮮における植民地「近代化」
- 第5回：「新興工業国（NICs）の挑戦」（OECD、1979年）
- 第6回：輸出志向工業化戦略の背景と内容
- 第7回：輸出志向工業化の成果と弱点
- 第8回：「東アジアの軌跡」（世銀、1994年）
- 第9回：アジア通貨危機（1997年）の教訓
- 第10回：中国の改革・開放政策（1979年～）の成果と課題
- 第11回：中国の一带一路政策の意義と課題
- 第12回：ASEANの結成（1967年）から市場統合（2015年）へ
- 第13回：ASEAN経済の二層構造
- 第14回：台頭するインド経済の現状と課題
- 第15回：グローバル時代の東アジア経済協力のあり方

●成績評価基準と方法

講義への取り組み（40点）と学期末レポート（60点）をもとに判定する。

講義への取り組みは4回程度（各10点）の復習レポートをもとに評価する。

学期末レポートは、①発展プロセスの歴史的かつ政治経済学的な理解、②現状と課題の理解、③相互協力の現状と課題の理解の3点について、原則として20点ずつ配分する。

●テキスト又は参考文献

- ・テキスト：後藤健太『アジア経済とは何か』中公新書、2019年。
- ・参考文献：坂田幹男・内山怜和『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房、2016年。その他、受講生の関心に応じて、紹介する。

●受講上の留意点

東アジアの経済発展に関心を持っていること。発表課題を課すこともある。遠慮なく質問や要望を出すなど、主体的に参加して欲しい。